

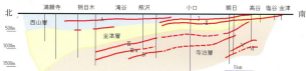
新津油田の開発史

新津油田の開発は日本でも古く、大正末までの総産油量は303万キロリットル、ガス1.2億立方キロメートルでした。新潟油田(新津、西山、東山油田など)の総産油量が722万キロリットルでしたので、新津油田は新潟の油田の中では第1位です。

1874(明治7)年に中野貫一は金津で手掘りをはじめました。手掘りであったので深さ50メートルほどの金津層から石油を採取しました。1893(明治26)年、上野品治は鹿島大助の指導で煮付付近で上総掘りをはじめ、113メートルで油層に達し成功しました。この深さの含油層も金津層の中の油層です。

1899(明治32)年、日本石社は熊沢で軽便式銅掘り掘削機で油層を掘りあてました。これも金津層の中の含油層です。その後、中野貫一も銅掘り式掘削機を導入し、宝田石油も進出して、小口、新日本、滝谷でさかんに採掘され、1906(明治39)～1910(明治43)年には新津油田の第1繁栄期になりました。

新津油田の南北地質断面



赤線は含油層(A, I～VI)、縦線は坑井とその深さを示します。